

## 高校生から小学生に福祉を伝える。

## 大変だけど、面白がって準備、当日はみんなで楽しむ。

介護福祉士を養成する日高高校福祉科。準備から運営まで全てを高校生が行う小学生対象の福祉学習の取り組みとは

### 【取組のポイント】

- 高校の授業の一環で、近隣の小学校4年生に福祉学習を経年的に実施している。「相手を思いやる心が大事」というメッセージを据え、企画、準備、運営の全てを高校生が担っている
- 高校生ならではのアイデアを活かし、「福祉」についての理解を小学生に分かりやすく伝えている
- 福祉学習を受けた小学生が、この取り組みをきっかけに日高高校福祉科に入学したケースもあり、小学校の教員も福祉や介護のしごとに対する理解が深まっている

### 高校と小学校の校長間の話合いがきっかけ

小学校と高校の校長間で連携事業をできないか協議する中で「高校生が小学生に福祉学習の授業を行う」という取り組みがスタート。初年度は試験的实施したが好評だったので、ブラッシュアップしながら経年の行事としている。

### 授業内容はその年担当の高校生が考える

日高高校福祉科2年生が講師となり、小学4年生に福祉学習を実施している。

毎年、福祉学習を通じて小学生には「思いやりの心が大事」ということを理解してもらうことを目標としており、福祉学習の体験内容などは全てその年の担当の高校生が考えている。

高校生は小学生の興味を引きつつ、分かりやすく学べるような工夫を凝らしている。今回、取材に応じてくれた高校生が実施した福祉学習では小学生に人気のある「どうぶつたちが暮らす森」のゲームをテーマに「色々な人が住む島で住民の困りごとを解決しながら良い環境に変えよう」というストーリー展開で福祉学習を実施した。

準備は高校生が授業中や放課後に行っており、寸

劇に必要な背景や小道具の作成の他、動画教材も自分たちで撮影・編集したとのこと。

授業は講義と体験に分けて行い、講義では福祉のことや白杖、点字ブロック等について寸劇を交えながら伝え、体験では全盲体験、ガイドヘルパー体験や車いす介助体験を通して「思いやりの心が大事」となることを伝えている。



### 高校生が授業することの良さ

小学生にとって比較的目標の近い、お兄さん・お姉さんから面白がりながら福祉について学べる。小学校の教員も福祉学習で行うべき内容決めに悩むこと

も多く、高校生からの授業が教員にとっても勉強になっているようである。

高校生にとっては、人に伝える・教えるという経験を通じて、福祉や介護のしごとに対する理解が深まるとともに、高校のPRにつながることも期待しており、双方にそれぞれ良い効果が生じている。

実際、日高高校福祉科生徒の中には、小学生の時に高校生からの福祉学習を受けたことがきっかけで入学した生徒もいるため、今後も取り組みを継続・拡大することで人材確保につながることも期待したい。

### 授業企画・準備の苦労話

高校では「スマホが放課後にしか使えないため、動画撮影等が放課後までできず、準備が大変だった」という高校ならではの意見もあったが「それでも楽し

く準備しています」とのこと。福祉学習の準備や実施で特に難しかったことは「小学生への説明の仕方」で、「福祉について学ぶ理由や体験の説明などで小学生にとってわかりやすい言葉を選ぶことに苦労しました」と教えてくれました。



## Message

### 教える側も学ぶ側も楽しめるようにすることが大事だと思います（3年生の皆さん）。

小学生はとても素直なので、楽しかったときは「面白い」とシンプルに伝えてくれるので、反応を見ていると面白いしやりがいも感じます。

福祉学習当日は、参加してくれる小学生と一緒に楽しむことが大切だと思います。

### 福祉学習で伝えたいことを学校の先生とよく話してください（高附先生）

小学校の先生の仕事もとても忙しく、やることがいっぱいあるので、福祉学習を手伝ってくれる事業所があればとても喜ばれると思います。

小学校の先生の理解が得られないと実現しないため、よく話をすることが大事です。福祉学習を体験だけで済ませるのではなく、体験を通じて「何を伝えたいのか」を話し合う中で小学校の先生が前向きな姿勢を見せてくれるようになれば、より充実した福祉学習になると思います。

<問い合わせ先>

兵庫県立日高高等学校 福祉科

豊岡市日高町岩中1 TEL:0796-42-1133

